

【ご案内】

「家庭科の授業を語る会（第206回）」の開催

10月に入り、ようやく秋の気配を感じられるようになりました。今年の夏は連日の猛暑日で、本当に厳しかったですね。

さて、過ごしやすくなったこの時期に第206回の「家庭科の授業を語る会」を開催します。今回は、大学院生の弓削さんと矢田さんが基礎能力発展実習で実施した授業をベースに、リサイクルの話題に走ってしまいがちな小学校の「整理・整頓」の授業について、具体的に捉え直しを行ってみたいと考えています。今回も、対面とオンラインのハイブリッドで開催しますので、遠方の皆さんもオンラインでお気軽にご参加下さい。

- 日 時 : 2025年10月18日(定例の第3土曜日) 午後2時から午後4時
- 場 所 : 宮崎大学教育学部 技術・家庭科棟 T211教室
Zoomでのご参加は、下記のアドレスに接続下さい↓
<https://us02web.zoom.us/j/82555748274?pwd=PGhkoWy4Nff2eigG9GYazWimO5rYa5.1>
○ミーティング ID: 825 5574 8274 ○パスコード: 1Bbg6u
- 話 題 : 題材「整理・整頓で快適に」の捉え直し
- 話題提供者: 弓削千夏・矢田大翔・伊波富久美（宮崎大学大学院）

「家庭科の授業を語る会（第205回）」（2025年9月20日）の報告

○話 題 : 小学校家庭科における協働学習の在り方
小学校における絵本を活用した家族学習

○話題提供者: 甲斐彩香, 御手洗明音（宮崎大学教育学部4年生）

第205回の「語る会」では、卒論の中間発表として、御手洗さんが「小学校における絵本を活用した家族学習」について、甲斐さんが「小学校における協働学習の在り方」について、それぞれ話題提供しました。

御手洗さんの発表では、家族は生活の基盤であり、家族学習の重要性が高いにもかかわらず学校教育の中で十分に扱われていないという点から考察され、その中で、絵本の有用性について具体例が挙げられていました。特に印象的だったのは、絵本が多様化しているということで、今の絵本は、いわゆる「普通」と呼ばれる家族の形だけでなく、一人親の家庭やLGBTQ+に関連したものもありました。子どもたちが分かりやすく多様な家族を知ることができ、家族学習に活用できると思いました。

甲斐さんは、対話や相互作用を通して学びを共に創り出す「協働」学習によって、互いの良さや新しい工夫を知ったり、互いの立場を尊重し合ったりすることで、児童が関係性を築きながら学び合う家庭科授業について考察していました。これまで「きょうどう」という言葉を特に意識せず用いてきましたが、同じ「きょうどう」でも含まれる意味や価値が異なることが分かりました。その中でも特に「協働」学習に目を向けながら、家庭科の授業について考えていきたいと思います。

4年生の中間発表を聴いて家庭科教育の課題や工夫を知り、私自身も多くの実践を見て、卒論で取り上げる内容を決めていきたいと改めて思いました。ありがとうございました。（文責：夏井）

連絡先：家庭科の授業を語る会（事務局）

〒889-2129 宮崎市学園木花台西1-1 宮崎大学家政教育講座内

伊波 富久美（大学院教育学研究科）：Tel/Fax 0985-58-7539（直通）

：メールアドレス e09101u@cc.miyazaki-u.ac.jp

●「家庭科の授業を語る会」のホームページ： <https://cms.miyazaki-c.ed.jp/ssc074/htdocs/>